



香川県教育センター 教育ライブラリーだより

第33号 令和7年12月10日

今年もはや年の瀬となりました。お忙しい季節とは思いますが、風邪などひかぬようお気を付けください。

そして、お正月にはゆっくりとコタツで読書などいかがでしょう。

教育ライブラリーには、たくさんの教育図書、研究紀要・論文、教育雑誌、視聴覚資料などがあります。

研究や研修にぜひお役立てください。教育ライブラリーでは、閲覧はもちろん貸出もできます。

基本的に土曜日も利用できます。年末年始の開館予定日は当ホームページでご確認ください。

書籍紹介

①「個別最適な学びを実現する ICT の使い方」

蓑手章吾/著

(学陽書房 2023年発行)

ICT を活用した学習に取り組みたいのだが、機器やアプリの細かい機能や使い方を知らないし勉強する余裕もないでの、と二の足を踏んでいる方にお勧めの本です。どの機器にも備わっている基本的な機能、基本的なアプリでこんなことができるという実例集です。著者によれば、ICT で使える基本的な機能は、文章作成、カメラ、ビデオ、インターネット検索、動画閲覧、ポートフォリオ（データ保管）の 6 つだけ。その他、使いたいアプリとしては、双方向型（ロイロノート等）、テレビ会議型、ドリル型の 3 類型があればよいとのこと。特別なものは何もなく、それなら今でも使っているという方も多いのでは。これらを単独で、あるいは組み合わせて何ができるのか。教科学習で、道徳やプログラミングで、実技科目で、宿題で、こんな使い方ができるという実例と実施する際の注意点を教えてくれます。それならできそうと思うたり、大量のプリントを用意する手間が省けるなと思ったりで、やってみようかなと思う実例が満載です。説明文は本当に平易で読みやすいので、気軽に手に取ってみてください。

②「高校生だけじゃもったいない 仕事に役立つ新・必修科目『情報 I』」

中山心太/著

(PHP 研究所 2023年発行)

IT を活用した職業に就くための登竜門とも呼ばれる国家資格『IT パスポート』と高校で学ぶ必修科目『情報 I』とは内容がかなり重なっているそうです。ご存じの通り『情報 I』は今年から大学入学共通テストでも課されるようになりました。これから社会では『情報 I』や『IT パスポート』の内容が一般常識となりつつあるようです。では時代に遅れじと『情報 I』の教科書を開いてみても、教科書というものは非常によくできた学習図書ではありますが、独学者にとって取り付きやすいものではありません。そこで登場するのが本書です。著者は IT 関連の企業研修などを手掛ける会社の経営者ですが、語り口はあくまで易しく、話題も豊富で最後まで飽きさせません。コンピュータとはそもそもどういうものなのか、コンピュータは課題をどのように処理するのか、システム開発はどのように行われるのかなど、楽しんで読んでいくうちにその考え方を理解できます。実際のプログラミングなどは別のトレーニングが必要になりますが、とりあえずからの社会で必要になる基本的な IT 知識の見取り図がほしい、しかも楽しみながらという方にはお薦めです。

③「個別最適な学び×協働的な学び×ICT 入門」

佐々木潤/著

(明治図書 2022 年発行)

授業中、ある子どもはもう理解できているので退屈し、別の子どもは全然理解できていないにもかかわらず説明が進んでしまうのでついていけない。明治以来の一斉指導にはメリットもたくさんありますが、デメリットが多く指摘されるようになりました。特に、資質・能力の育成を重視する現在の教育課程では、個別最適な学びと協働的な学びが不可欠とされています。この課題に「先進校でも私学でもない、地方の一公立小学校」で現場の一教師としての取り組んだ著者の実践をまとめたものが本書です。著者の実践の要点は、自由進度・自己調整学習、課題選択学習、協働的な学び（構成的・非構成的）、ICT の活用の組み合わせということになりますが、教科や課題の特性によってその組み合わせは多様です。本書はその実際を各教科や学級づくりなどの課題ごとに実例豊富に教示してくれます。実施する上でのノウハウも開示してくれており参考になります。本書を読んでいると、子どもたちが熱心に自分の課題を追求したり、にぎやかに学び合ったりする姿が目に浮かぶようで、読んでいる方も楽しくなります。一斉指導オンリーから抜け出すヒントを探している方はぜひ読んでみてください。

雑誌紹介

雑誌名	号	特集等（抜粋）
国語教育 (明治図書)	12月号	<p>【特集】使える授業技術ベーシック & アドバンス 100</p> <p>◇達人がやっている授業技術の磨き方</p> <p>◇国語の授業技術 ベーシック & アドバンス 100</p> <p><授業づくり>真似の上手な学び手になる模倣力 他</p> <p><教材研究>ワクワク教材セレクト術 ゴール逆算設計法 他</p> <p><単元構成>「教材名」≠「単元名」の理解 手引の活用 他</p> <p><発問>問い合わせ・説明・指示でつくる発問 子どもの経験を引き出す発問</p> <p><板書>端的に、的を射た書き方 意図的に取る「間」 他</p> <p><導入>明確なゴール像の設定 読解前ガイド 他</p> <p><ペア活動>基本ルールの共有 音読練習のバリエーション 他</p> <p><グループ活動・全体交流>活動の基本は4人組 他</p> <p><発表>発表前ワーク 聞き手メモ 他</p> <p><まとめ・振り返り>まとめは、キーワード 振り返りは、視点 他</p> <p><学習評価>指導事項の正確な理解 指導事項の内容の絞込み 他</p> <p><漢字指導>新出漢字を黒板の隅に板書 まず、訓読み・音読みを音読</p> <p><音読・朗読指導>楽しく、効果的な音読指導 丸読み 他</p> <p><作文指導>書くための土台づくり 感情語彙を増やす「言葉貯金」 他</p> <p><読書指導>読み聞かせ 読書カードの活用 他</p> <p><語彙指導>暗唱 視写 他</p> <p><宿題>意味ある宿題にする「けテぶれ」 低学年での「けテぶれ」 他</p> <p><ノート指導>ノートは思考の作戦基地 拡散的思考を起こす箇条書き</p> <p><Canva の活用>縦書き対応の「デジタル板書」 本文を取り込んで共有</p> <p><生成 AI の活用>同じ条件で作文を書く AI 体験 他</p>

社会科教育 (明治図書)	12月号	<p>【特集】社会科授業がおもしろい先生が実はやっている授業アイデア</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇授業づくりの基礎基本 ◇好奇心を高める教材づくりと仕掛け ◇見方・考え方を鍛える工夫 ◇一味違う発問・指示・説明 ◇個別最適な学びを実現する授業デザイン ◇教科横断型の授業アイデア ◇話し合いを深める「教師の出所」 <p><授業最前線></p> <p>小3年 「問われてこそ見えてくる」から始まる問い合わせの4ステップ</p> <p>小4年 追体験による「日本人性」への気づき</p> <p>小6年 政治の働きを身近に感じ追究せずにいられない授業</p> <p>小6年 チャート図で歴史人物を多角的に解釈する</p> <p>中・地理的分野 生徒が自らの変化に気づくデザインを導入する授業</p> <p>中・歴史的分野 ・「わからないからおもしろい」授業を目指して ・見方・考え方を鍛えておもしろさと出会う</p> <p>中・公民的分野 ・多様な事例と「対話」で深める文化の価値 ・コップの水から考える JICA海外協力隊の意義</p> <p>高・地理 気候と生活文化：生成AIを活用して問い合わせに答える授業</p> <p>高・歴史 学習科学に基づき、市民性を育んでいく日本史探究</p> <p>高・公民 障害はどこに・なぜある？</p>
新しい算数研究 (東洋館出版社)	12月号	<p>【特集】学習指導要領実施状況調査、全国学力・学習状況調査からみえる授業づくりの方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇低学年から算数の授業で大切にしていきたいこと ◇現実事象の数学化を重視した授業づくり ◇数学的に考える資質・能力の育成について
数学教育 (明治図書)	12月号	<p>【特集】発問、説明からヒント、コメントまで数学教師の「言語化」大全</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇発問：「生徒の発言」をつなげる問い合わせの技術/「多様な考え方」を言語で整理する問い合わせの技術/「枠を越えた思考」を促す言葉かけの技術 ◇言葉かけ：生徒の間違いを否定せず、「考える動機」につなげる技術 他 ◇指示：「短い言葉」に分けて、段階的に指示する技術/行動と目標を「結び付ける」指示出しの技術 他 ◇説明：生徒が「数学用語」に慣れる説明の技術/教科書を「そのまま読まない」説明の技術/生徒の「わからない」を生かす説明の技術 他 ◇授業のめあて：授業のねらいを「生徒の実感」に近づける言い換えの技術 他 ◇授業のまとめ：教師ではなく、「生徒の言葉」でまとめる技術 他 ◇板書：見通しの「共通認識」をもてる授業タイトルネーミングの技術 ◇テストの問い合わせ：余計なところで「つまずかせない」問題づくりの技術/問い合わせ方を調整して「思考を導く」技術 他 ◇ノート指導：ノートの書き方を「選ばせる」問い合わせの技術 他 ◇ヒント：曖昧さを残して、「思考を止めさせない」技術 他 ◇コメント：生徒に「発展的な取組」を促す一言コメントの技術 他
理科の教育 (東洋館出版社)	12月号	<p>【特集】どうする！？生成AIと理科教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生成AIと理科教育についての提言 ◇生成AIの利活用に関するガイドラインと理科教育

		<ul style="list-style-type: none"> ◇私が考える「生成 AI と理科教育」 ◇生成 AI を利活用するアイデアや授業実践 【連載】◇生徒をひきつける観察・実験 水の合成 ◇教材研究一直線 ムラサキキャベツの教材性 ◇教材の隠し味 転がるジャム瓶コンテスト ◇北極星から見て地球の自転方向はどっち？
英語教育 (大修館書店)	12月号	<p>【特集1】生成 AI 時代に考えたい 課題の出し方・取り組ませ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生成 AI 時代における課題設計 モチベーションとエンゲージメント ◇“AI が前提”の課題へ 英作文と形成的評価の実践 ◇流暢性向上を目指したスピーチ課題“BOLT”(Boost Oral Language Task) AI 時代だからこそ他者と関わりながら ◇AI×授業デザイン 生徒の考えを引き出す課題「理想の1日」 ◇学びのあるライティング課題のための生成 AI 利用の考え方 <p>【特集2】「想定外」にどう対応する？ 授業内のタイムマネジメント術</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇子どもの姿から逆算する授業計画 ◇授業をスムーズに進めるための板書とペアワークの工夫 ◇ICT を活用した授業で「想定外」を乗り切る工夫
道徳教育 (明治図書)	12月号	<p>【特集】子どもが発言したくなる！道徳授業の言葉かけ 100</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇発言したくなる空間づくりと言葉かけとは ◇十八番からスキルの磨き方まで！道徳授業がうまい先生の言葉かけ ◇安心して発言できる環境づくりの言葉かけ ◇導入で引き込む言葉かけ ◇考えをもっと引き出す言葉かけ ◇対話を広げる言葉かけ ◇自己を見つめるときに有効な言葉かけ ◇判断を求めるような授業場面での言葉かけ ◇グループ学習での言葉かけ ◇役割演技での言葉かけ ◇子どもと教師の距離が近づく言葉かけ ◇授業前後の言葉かけ ◇授業外で道徳授業につなげる言葉かけ ◇授業がもっと楽しくなるアイデアある言葉かけ ◇授業態度にかかわる言葉かけ ◇見過ごせない発言を優しく諭す言葉かけ
授業力＆学級経営力 (明治図書)	12月号	<p>【特集】自由進度学習の「壁」、こう越える！</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇本音で語る実践してわかった自由進度学習の「難しさ」 ◇自由進度学習でぶつかりがちな「壁」こう越える！ <p><学習材・学習環境>学習計画、可視化・動機づけ、ワークシート、練習問題・テスト、掲示物</p> <p><授業づくり>評価・見取り、一斉（集団）と個別のバランス、単元全体の設計、対話・協働との接続、振り返り</p> <p><個別支援>進度の差の広がり、集中・モチベーションの低下、子どものつまずき対応、支援が必要な子への配慮</p> <p><教師の役割>言葉かけ、介入する場面の判断、フィードバック・フィードフォワード</p> <p><学校全体>他の先生との足並み、保護者への説明・不安への対応、管理職の働きかけ</p>

生徒指導 (学事出版)	12月号	<p>【特集】生徒指導に「社会モデル」の視点を当てはめてみる ◇学校における「社会モデル」の視点とは? 「ふつう」を問い合わせ、誰もが学びやすい学校へ ◇「複合的な背景」を理解するB P S モデル ◇「社会モデル」アセスメントに基づいた支援の実際 ◇社会モデルを基盤としたS S Wが考える多職種連携 ◇小さなことからはじめられる「社会モデル」アプローチ 【連載】◇通信制の拡大は、多様性の拡大か、下層の拡大か ◇雨水が沈み込むように届く生徒指導 ◇ネット・SNSトラブルに対応した情報モラル教育 ◇押さえておきたい毎日の生徒指導 「やってない」と言い張る ◇教師を楽しむ仕事論 職員室の“ゆるスキル”</p>
	増刊号	学校全体で生徒指導を推進する生徒指導方針作成ガイド 第1章 生徒指導方針の意義 第2章 生徒指導方針を作成する 第3章 生徒指導方針を周知・活用する
教職研修 (教育開発研究所)	12月号	<p>【特集1】なぜ子どもに学びをゆだねられないのか ◇「子どもが主語の学校」だから、子どもが育つ ◇〔座談会〕なぜ、子どもに学びを「ゆだねる」のか ◇学びを子どもに「ゆだねる」ことへの疑問・不安に応える 【特集2】休み方改革 めざせ!持ち越し年休ゼロ ◇管理職から伝える!きちんと休める教師を育てる ◇教師の年休取得日数を増やす制度改正 ◇時差出勤を実現させる仕組み ◇ドライブ上で共有 計画年休申請シート ◇「負担軽減」から「余白創出」へ 「休めない…」から抜け出すために 【連載】 ◇検証1 2年目のいじめ防止法 「いじめ重大事態」対応の最前線で何が起きているのか ◇研究授業で学校をつくる 事前検討会を最適化する ◇新しい教育どうなった?? 「探究」はどこから来て、どこに向かうのか</p>
初等教育資料 (東洋館出版社)	12月号	<p>【特集1】教師を取り巻く環境整備 ◇学校の働き方改革の更なる加速化に向けて ◇校長等の管理職によるマネジメント 教職員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立し、子供たちに対しよりよい教育を行うための手立て ◇学校の負担軽減に関わる教育委員会の取組を通して ◇学校運営協議会を核とした教師を取り巻く環境整備を通して ◇現行教育課程のもとでの週当たりの時数の工夫を通して ◇校務DXの取組を通して 【特集2】直接体験を基本にデジタル学習基盤を活用した理科の指導の充実 【教育の扉】やなせたかし先生の生き方を通して/越尾正子(株式会社やなせスタジオ代表取締役)</p>

中等教育資料 (学事出版)	12月号	<p>【特集】〔高等学校〕各教科を交えて語り合う③ 学習過程の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「社会的な見方・考え方」を働かせ、公民としての資質・能力を育成 ◇高等学校外国語科における資質・能力の育成に向けた学習過程の在り方 ◇これからの高等学校看護科の授業の在り方を考える ◇高等学校特別活動における「主体的・対話的で深い学び」に向けた学習過程 <p>【連載】◇中学校と特別支援学校における交流及び共同学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇外国人生徒支援・多文化共生高等学校のパイオニア 地域・大学・NPOとの連携を通して 茨城県立結城第一高等学校 ◇産業教育のページ 専門教科情報科の取組について
実践みんなの特別 支援教育 (Gakken)	12月号	<p>【特集】思春期の子どもの不安症に 学校でできる認知行動療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇教育現場で不安症に対応するための認知行動療法 基本の「き」 ◇通常学級で教師ができる不安症の子どもの理解と支援 ◇不安症を抱える子どもの保護者との協働 ◇思春期の複雑な心を理解して応じる認知行動療法による見立てと支援の基本 <p>◇「楽しい」ついでに「わかった」が付いてくる自作ゲーム</p> <p>◇「充実した授業」とは何か 授業づくりの原理原則</p> <p>◇こどもを理論的に捉えるみたてラボ 不器用さと運動学習</p> <p>◇障害を受け入れ俳優の道へ 台本を使わない演技指導から学んだこと</p> <p>◇小学部児童の認知特性の長所を生かした買い物学習</p>
特別支援教育研究 (東洋館出版社)	12月号	<p>【特集】協働的な学びで何を育てるのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇協働的な学びが創るインクルーシブな社会 ◇中度・重度知的障害がある子ども同士の協働的な学び ◇外部リソースを使用した学び ◇充実した交流及び共同学習を通して身に付いた力 ◇特別支援教室における「人とのかかわり」を最大限活用した「協働的な学び」の充実 ◇障害のある子どもの「自立と社会参加」にとって有意義な学びとなるために ◇マイノリティ側の視点から見つめ直す「協働的な学び」 <p>【連載】◇通級による指導に関する所見等の留意点</p> <p>◇「伝えたい！」に寄り添う音声ペンと平仮名表を用いた実践</p>
学校図書館 (全国学校図書館 推進協議会)	11月号	<p>【特集】子どもの読書の現状（第70回学校読書調査報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇第70回学校読書調査報告（全国SLA研究調査報告部） ◇読書でみんなの心に種をまこう 5月1か月間に本を何冊読んだか ◇紙の雑誌のよさを子どもたちに伝えよう ◇「調べる」ときに使うのは圧倒的にスマホだが 分からないことを調べるとき、何で調べるか ◇情報の正しさを確かめる意識は不十分 どのようにパソコンやスマホの情報の正しさを確かめているか ◇読み聞かせは心と触れ合い心を育てる どのような環境が読書を育てるのか

	<p>◇読書もタイムパフォーマンス重視なのか？</p> <p>今の学年になってから読んだ本の書名</p>
12月号 高校教育 (学事出版)	<p>【特集】子どもの権利と高校教育</p> <p>◇子どもの権利とは何か 今の高校教育に求められること</p> <p>◇福祉的視点での子どもの権利理解とその保障に向けて学校でできること</p> <p>◇[生徒の声]から始める学校づくり 全国のルールメイキングの事例から</p> <p>◇生徒が決める、社会参画を促す取組</p> <p>◇仏米における校則（生徒規則）と高校生の権利</p> <p>【連載】◇探究リブート 公立高校での学校独自の探究の開発</p> <p>◇2040年、教育の旅 2040年の数学教室 個別最適化学習編</p> <p>◇クラウドや生成AIを活用した深い学び 岡山県立岡山芳泉高等学校</p>
増刊号 高校教育 (学事出版)	<p>高等学校「学びの変革」広島県の挑戦</p> <p>第1部 「学びの変革」の全体像</p> <p>第1章 「主体的に学び続ける力」の育成を目指した「学びの変革」</p> <p>第2章 改革を重ねる「研究指定校」事業</p> <p>第3章 指導主事が各学校に伴走する</p> <p>第2部 協働から生まれた8つの実践物語</p> <p>第1章 出会いで変わる「屋根のない学び舎プロジェクト」</p> <p>第2章 Be the First Penguin！</p> <p>第3章 研究科創設と「探究的な学び」のあゆみ</p> <p>第4章 学科を越えた探究的な学びの推進</p> <p>第5章 格物致知「を」生き、格物致知「で」生きる生徒の育成</p> <p>第6章 自律した学習者の育成に向けて</p> <p>第7章 「殻破りからの最高の自分！」を目指した取組</p> <p>第8章 県工・未来創造学習KenProへの挑戦</p>
12月号 道徳と特別活動 (文溪堂)	<p>【特集1】子供と共につくる板書の事前と事後</p> <p>準備と計画、授業評価に焦点を当てて</p> <p>◇道徳科における子供の反応を大切にした明確な板書</p> <p>◇学級会における児童と共につくる板書とは何か</p> <p>◇板書はいつ、どのように計画・準備するのか</p> <p>◇学級会の「板書」を読み解く</p> <p>「学びの履歴書」として、指導の手掛かりに</p> <p>◇板書を活用しながらPDCAサイクルで授業力向上</p> <p>◇ねらいとする道徳的価値を自分事として考える</p> <p>児童の発言を一般化する板書</p> <p>◇思考ツールやグッズを使った板書 五年生『流行おくれ』の実践</p> <p>◇発達の段階に応じた学級会における板書計画</p> <p>　　入門期から始まる低学年の指導</p> <p>◇板書を活用し、活動の積み重ねを意識した学級活動（1）</p> <p>◇よりよい意思決定を目指した板書の工夫</p> <p>【特集2】ウエルビーイングの土台となる豊かな心、健やかな体を育む</p> <p>◇ウエルビーイングにおける道徳科と体育科の役割</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ◇「問われる存在」から「問う存在」へ 「おたずね」を通して育む豊かな心の学び ◇「多様なできた」を評価し「体育が得意」な児童を育む 共生の視点を取り入れた授業を通じて
学校事務 (学事出版)	12月号	<p>【特集】2025年度 夏季研究大会・集会リポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇第57回全国公立小中学校事務研究大会（滋賀大会） ◇第77回全国公立高等学校事務職員研究大会（香川大会） ◇第49回全国公立学校事務長総会並びに研究協議会 ◇第66次日教組全国学校事務研究集会 ◇第52回全国学校事務労働者交流集会（全交流・滋賀） ◇第34回全国学校事務研究集会（あさひかわ集会） ◇日本教育事務学会 第10回研究集会（名古屋集会） <p>【特別企画】私学女子校の存在意義と学校事務職員の役割 感度のよさとホスピタリティ</p>
指導と評価 (日本教育評価研究会)	12月号	<p>【特集1】令和七年度全国学力調査の分析</p> <p>【特集2】感性と生き方の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇思想や宗教に関するリテラシー教育とカルト対策 ◇仏教的人間観に基づく感性と生き方の教育 ◇キリスト教的人間観に基づく感性と生き方の教育 ◇「見えない何か」を大切にする感性と生き方の教育 ◇学校の授業で、宗教と社会にかかわる問題をどのように扱うか